

野球のオリンピック競技復活に向けて

スポーツクラブマネジメントコース

5007A320-2 津賀正晶

研究指導教員： 間野義之准教授

1. 緒言

野球は、1992年のバルセロナオリンピックから正式競技となり、2008年の北京大会で5回目を迎える。その間、加盟国数も増加し、116カ国を数えるに至った。

ところが、2005年の国際オリンピック委員会の総会で2012年ロンドン大会から除外された。理由は、①他の競技と比べて国際連盟への加盟国が少なく、世界的に普及しているとは言えない。②オリンピックへの収入依存度が高い③男女同一競技ではなく、かつ女性役員がいない。④アテネ大会でのチケット売上が低迷⑤トップレベルの選手が出場しない⑥アンチドーピングに対する啓発遅れが主な理由である。

野球は、アメリカ大陸や北東アジアの一部では人気の高いスポーツであるが、世界的に見れば、決してメジャーなスポーツとは言えない。日本やアメリカ合衆国はオリンピックがなくても、野球が発展することはできる。しかしながら除外は、野球後進国にとっては野球をプレーすること自体に意義がなくなることにつながり、野球競技自体がその国から消えてしまう可能性もある。日本やアメリカ合衆国等の先進国は、今後の野球の国際化について進むべき方向性の決断を迫られたと言えるだろう。

野球を世界に広めようとするならば、オリンピックの意義を十分に理解し今一度、野球をオリンピック正式競技に復活させて、国家ごとの野球の振興、男女同一競技として発展させて、オリンピック競技としての地位を築いていくのが良いと考える。一方では、野球の世界最高峰を争う場として、メジャーリーグ野球機構や日本プロフェッショナル野球機構を中心としたプロ野球の発展に主力を注ぎ、野球後進国に人材を雇い入れて、2006年3月に開催されたワールド・ベースボールクラシックのようなトッププロの国別対抗戦として発展していくのか。ここ2年間は野球界にとって重要な時期になるであろう。

いずれにしても今年の北京オリンピックまでは野球は正式競技であり、日本が金メダル候補であること、さらにワールドベースボールクラシックの初代チャンピオンであることは紛れもない事実である。

日本は今夏の北京大会を成功させるための一役を担っている。日本はおかれている立場を十分認識し、アメリカ合衆国とともにリーダーシップをとり、プロ・アマ丸となって国際野球の発展に寄与していかなければならない時期といえる。今研究では野球のオリンピック競技の復活に着目し、考察を行うこととする。

2. 野球とオリンピック

野球のオリンピック登場からアテネ大会までの歴史を4期に分けて忠実に辿りオリンピックが野球に与えた影響を考察する。

3. 国際野球連盟の沿革

国際野球の歴史について設立敬意から現在に至るまでの歴史を忠実に辿る。野球が近代オリンピック誕生後オリンピック競技の候補に上がりながら、寸前で逃した理由を探る。

4. 2002-2005IOCレポート

正式競技になりながらなぜ突然の除外勧告を受けなければならなかったのか2002年勧告、2005年除外のIOCプログラム委員会の訳を探る。

5. 国際野球連盟の新体制

除外を受けた野球が2016年復活を目指してどのような活動計画を立てているのか2007-2015計画の考察を行う。

6. 過去の除外事例

他競技の過去の他競技の外事例を探る、メキシコから柔道、バレー、洋弓、ハンドボールの除外が決定した、いち早く復帰したバレーの訳は、柔道がなぜおくれたのかを探ることとする。

7. 先進国の普及振興策

野球先進国の普及事業への取組みの一例を紹介する。日本の海外における野球の普及事業なども紹介していく。

8. 女子野球について

日本の女子野球の取組みを探る、日本の女子野球は世界一にもなった強豪チームである。今後の課題と展望を考察する。

9. ドーピング問題

ドーピング問題について、野球界に取り巻く禁止薬物疑惑と日本の野球界の先進的な取組みを紹介する。

野球のもう一つの方向性であるワールドベースボールクラシックの大会概要今後の展望について検証してみる。

10. 考察

現在の進むべき方向性である「国際化」とはどうあ

るべきかを考察し現時点における日本の野球界の進むべき方向性を考察する。

野球はまだ普及が低く国際化を推し進めるに当たっては、オリンピックへの不可欠である点、ワールドベースボールクラシックではなぜだめなのかを考察する。

野球競技の程、普及に適さない複雑なルールに囲まれた競技もめずらしいことなどを考察していく。

11. 結論

本研究では、ワールドベースボールクラシックは尊重しつつも、2009年の総会目指して北京で何をすべきか、オリンピックにむけた確実な実りある実行戦術を提案するとともに、中長期的に日本の野球界はどうあるべきか見解をのべることとする。

最後に、オリンピック復活に向けて、更なる発展を目指すために何をなすべきか見解を述べる。